



IUFRO-J NEWS

No. 106(2012.7) —

IUFRO 国際研究集会「第2回 FORCOM2011 —次世代のための追求と新しい挑戦」開催報告

三重大学大学院生物資源学研究科 松村直人

I. はじめに

平成23年9月26～30日の5日間に渡り、三重大学を主会場に、三重大学生物資源学部附属演習林・統計数理研究所リスク解析戦略研究センター共同主催、森林計画学会、IUFRO（国際森林研究機関連合）共催、三重県、トヨタ自動車バイオ緑化事業部後援のもと、「The Second International Conference on FORCOM - Follow up and New Challenge for Coming Generations - FORCOM 2011」を開催した。本シンポジウムでは「森林資源管理の哲学と技術」をメインテーマとし、宇都宮大学で開催されたFORCOM2004（次世代のための森林の役割—森林資源管理の哲学と技術）に続き、今後の森林資源管理の研究展開を狙い、国内外の研究者と実務者、あるいは森林管理に関心のある方々、さらに若手研究者の積極的参加を呼びかけ、研究成果発表と参加者

間の意見交換の場を設定することを目的とした。また、本シンポジウムは平成23年度森林計画学会夏期セミナーも兼ねて実施した。

今回のシンポジウムでは、実行委員会を代表して、松村から「森林管理水準の世界標準での検証に関する話題」と田中和博京都府立大学教授（研究科長）による「森林GISを利用した次世代型森林資源管理システムについて」の2件の基調講演と森林計画、リモートセンシング、GIS、炭素・生物多様性関連、森林成長モデリング・計測関連など、森林資源管理に関わる幅広い研究内容について12件の口頭発表と19件のポスター発表があった。

シンポジウム参加者は計63名、そのうち海外（カンボジア1名、韓国2名、中国2名）計5名、国内では一般35名、学生・院生23名などであった。



写真-1 集合写真

II. 概要

1. 全体プログラム

9月25日(日)の夜、津駅前でアイスブレイクが開宴し、本シンポジウムの開始となった。9月26日(月)三重大学メディアホールにて、基調講演、一般発表、懇親会、27日(火)は三重大学附属平倉演習林の見学、現地検討会、28日(水)は再びメディアホールにて、基調講演、一般発表、ポスター発表、最終討論会、29日(木)、30日(金)は、トヨタ三重宮川山林(大台町)、伊勢神宮宮域林(伊勢市)へ、それぞれ希望者による日帰りの現地見学会を実施した。

2. 9月26日プログラム

開催に当たって、吉岡 基三重大学大学院生物資源学研究所長と西村文男三重県環境森林部森林林業総括室長から歓迎の祝辞をいただき、その後、実行委員会を代表して、松村が基調講演「Philosophy and techniques for forest resource management - Follow up and new challenges for coming generations」を行い、地球規模での森林消失・劣化を背景に、森林管理水準の世界標準での検証、国レベルから地域、森林経営事業体レベルまでの森林管理認証システムの可能性などについて講演した。

その後、一般講演に移り、(以下、発表題目の抄訳)「インドネシア・中央カリマンタンの泥炭湿地林を対象としたALOS/PALSAR データを用いた解析」(岐大 栗屋善雄)、「LiDARによるDTMを用いないLAI等の推定」(名大 山本一清)、「低密度LiDARと収穫表を用いた針葉樹人工林のバイオマス全量と炭素吸収量の推定」(森林総研東北 小谷英司)、「高校生の森林の機能に関する認識」(京大 河瀬麻里)、「森林と人間の発展: 地球規模の森林面積変化による社会経済要因の解析」(森林総研 道中哲也)、「カンボジアにおける森林炭素蓄積量の推定」(兵庫県立大学 佐々木ノビア)、「カンボジア東北3州混交林における炭素蓄積量の比較」(カンボジア森林局 キムスン・チェン)、「カンボジア東北

3州混交林におけるRIL集材の林分構造への影響」(カンボジア森林局 キムスン・チェン)の発表があった。

その後、三重大学生協第一食堂において懇親会を行った。

3. 9月27日プログラム

会期中見学会として、三重大学附属平倉演習林での現地検討会を実施した。この演習林は、広域合併によって現在は津市美杉町となっているが、実際には奈良県境に接する雲出川流域の源流部、旧美杉村に位置している450haほどの森林である。現地では、沼本晋也准教授(演習林次長)による演習林紹介の後、パーベキューによる昼食を取り、午後には紀伊半島で希少となったモミ・ツガなどの針葉樹天然林、ブナ、ケヤキ、ミズナラ、ヒメシャラなどの落葉広葉樹、その他常緑広葉樹の混交する天然生林、樹齢200年となる藤堂スギ人工林固定試験地、量水堰堤などの水文観測施設の見学も行った。

平倉演習林では、9月の台風12、15号により施設・アクセス路、ライフラインに大被害が発生した直後で、演習林スタッフは、なんとか見学会に間に合わせて、仮復旧させたというのが実情であった。

4. 9月28日プログラム

大会3日目は、再び三重大学メディアホールに会場を戻し、一般講演「ヒノキ人工林の炭素動態全国レベルシミュレーション」(森林総研四国 光田 靖)、「北海道異齢林の生物多様性と作業影響評価に関する森林管理ガイドライン」(森林総研北海道 高橋正義)のあと、田中和博京都府立大学教授(研究科長)による基調講演「A perspective on forest registration for the next generation in the era of GIS」、森林GISを利用した次世代型森林資源管理システムについての発表があった。その後、「神宮宮域林の持続的森林管理計画」(東大 中島 徹)、「都市近郊林と医療用途の構造モデル」(韓国ユージ大学 リー・カンソ)の一般講演のあと、休憩をはさみ、以下の3グループによるポスター発表が行われた。

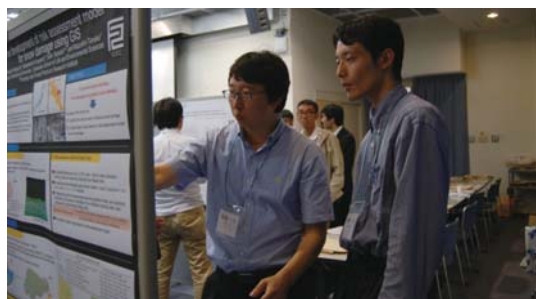


写真-2 ポスター発表風景1

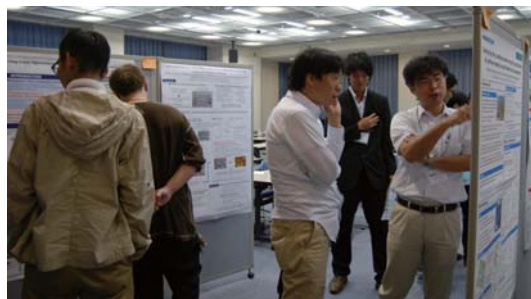


写真-3 ポスター発表風景2

1) グループ A：森林計画全般

「風倒被害評価のためのエアフローモデル」(九大 谷川直太), 「千曲川溪畔林におけるニセアカシアの成長と分布」(東大 當山啓介), 「国家森林資源調査における天然林の類型化」(森林総研四国 北原文章), 「中国海南島自然保護区における森林管理と地元民の森林利用」(東大 陳元君), 「インドネシア・西ジャワにおけるアカシア・マンガウムの成長予測」(三重大 井上 伸), 「北海道中部の天然林管理における林相区分」(東大 尾張敏章)

2) グループ B：リモートセンシング& GIS

「リモートセンシングデータと k-Nearest 法を用いた森林バイオマスの推定」(韓国江原大学 リー・ジュンソ), 「アンサンブルラーニングの画像分類を用いた植生図」(新潟大 望月翔太), 「2台のデジタルカメラを用いた下層植生の推定」(名大 村瀬康久), 「高解像度衛星画像を用いた立木密度推定」(九大 太田徹志), 「京都市郊外のナラ枯れ拡大の要因」(京府大 吉井 優), 「GISを用いた雪害評価モデル」(京府大 野口貴士), 「三重県大台町ヒノキ人工林の適地抽出」(京府大 土田遼太), 「三重県大台町の林業適地分析」(京府大 林 康彦)

3) グループ C：森林情報システム, e-forest

「未利用森林資源の再生支援システム e-forest」(三重県林業研 野々田稔郎), 「強度間伐後のスギ・ヒノキ林の樹冠閉鎖率」(三重研林業研 野々田稔郎), 「対話型森林管理システムによる人工林の構成成長予測」(森林総研 千葉幸弘), 「小型レーザースキャナーを用いた山岳林の構造解析のための3次元地図作成」(森林再生 塩沢恵子), 「間伐材の利用可能性評価」(森林再生 望月亜希子)

その後、夕食を取りながら、クロージング討論を行った。

5. 9月29日プログラム トヨタ三重宮川山林見学会

希望者による見学会初日は、トヨタが山林を購入したと話題になった大台町(旧宮川村)山林である。当日は、トヨタ自動車バイオ・緑化事業部緑化技術開発室から、福村郁夫室長、高木 剛主幹、森林保全グループマネージャー小野祐彦氏、諸戸林友川端康樹氏、森林再生システム研究員望月亜希子氏らに対応いただき、1,702haの山林概要の説明、現地見学を行った。もともと諸戸林産(株)の所有時代にいろいろな取り組みがなされ、全国平均17m/haを遙かに上回る44m/haという高密度路網、これから収穫期を迎えるスギ、ヒノキ人工林、豊富な針広天然林などを所有している。今後、森林再生のモデルになるように、山林作業の効率化、共同研究などによる技術開発、「標準化」、「見える化」などを進めて行く予定とのことであった。当面、50年山林再生ビジョンの



写真-4 トヨタ三重宮川山林見学

策定を目指し、10年ごとのフェーズでの目標、マイルストーンを定め、長期的にはサステナブルな林業を目指し、林業経営の安定を目指す予定である。

また、地域にも開かれた山林ということで、地元への説明会、交流会なども開催し、当日はあいにくの台風被害で十分見学できなかったが、遊歩道の整備も進めている。さらに、FSC森林管理認証も取得し、定期的なモニタリングポイントも設定し、国際認証林としての地域貢献、情報発信も進めて行くとのことであった。

6. 9月30日プログラム 伊勢神宮宮域林見学会

見学会2日目は、伊勢市山林の大部分を占める伊勢神宮の宮域林であった。この宮域林は、約2000年前から「大御神の山」としてあがめられている。神宮司庁営林部のご案内で、20年ごとの「式年遷宮」に備え、御造営用材を生産する施業地の見学を行った。将来的に残す木を二重ペンキ、一重ペンキでマークし、その樹の肥大成長促進のため、間伐は周辺の隣接木の強度伐採(受光伐)を基本としている。200年での収穫を目指し、ha当たり100本程度の収穫、平均胸高直径は大樹候補(二重ペンキ)で100cm、御造営用材候補(一重ペンキ)で60cm以上を目標としている。

その後は各自参拝客で賑わう「おかげ横丁」にて昼食を取り、帰路についた。パワースポットブームとかで、年々百万単位で参拝客が増えており、平成25年の第62回式年遷宮に向けて、今後さらに増加するものと思われる。

III. おわりに

多くの大学では夏休み最終週ということで、集中講義や実習の予定、また台風被害の対応、その他の学会開催など、日程的には窮屈な時期だったかもしれない。また、1週間という会期日程もフル参加は時期的に困難であったとも思う。それにもかかわらず、多数の参加、特に大学院生など、多数の若手の参加があったことに感謝致します。また、幸い天候には恵まれ、多くの参加者にとって、さわやかな伊勢路を楽しんでいただけたのでは

ないかと思う。

今回のシンポジウムを企画するに当たり、当初のアナウンスは早かったものの、Web の案内など、2 次的な広報が遅れ、また東日本大震災の発生などがあり、関係各位には大変ご迷惑をおかけした。

最後に実行委員会委員も含め、関係各位に厚くお礼申し上げます。共同主催していただいた統計数理研究所リスク解析戦略研究センター吉本 敦氏、シンポジウムロゴをデザインしていただいた東京大学露木 聡氏、後援いただいた三重県環境森林部、トヨタ自動車バイオ緑化事業部、助成いただいた IUFRO-J、見学会に対応いただいたトヨタ三重宮川山林、神宮支庁営林部関係各位、実行委員の三重県林業研究所、三重大学附属演習林ならびに緑環境計画学研究室の各位に感謝する次第である。

今回のシンポジウム報告は、森林計画学会英文誌に要旨集 (Matsumura 2012) ならびにその後の投稿論文集

として、特集号で編集、発行される予定である。また、学生の感想や多数の写真を含めた詳細な報告は同学会和文誌 (松村 2011) に収録されている。今回のシンポジウムでの発表、討論、現地見学などが、参加各位の今後の研究の発展に貢献し、さらに今後の「森林資源管理」研究が加速されることを願っている。

引用文献

松村直人 (2011) IUFRO 国際研究集会「第 2 回 FORCOM2011 一次世代のための追求と新しい挑戦」実施報告, 森林計画誌 45(1), 9-15.

Matsumura, N. (2012) Abstract proceedings of FORCOM2011- the Second International Conference on FORCOM- Followup and new challenge for coming generations, Journal of Forest Planning 17(2): 59-70.

IUFRO タスクフォース「Forests for People」 第 1 回国際会議に出席して

森林総合研究所 恒次祐子

オーストリアはチロル州にあるアルプバハは「ヨーロッパで最も美しい花の村」にも認定されたことのある静かな山間の村ですが、環境に配慮した近代的な会議場を有し、多くの国際会議の開催場所として有名だそうです。その会議場で 2012 年 5 月 21 日～24 日に開催された「Forests for People」に出席する機会を得ました。この国際会議は 2010 年に設立された同名のタスクフォースが主催するもので、会議長はタスクフォースのコーディネーターでもあるウィーン農科大学の Ulrike Pröbstl 教授が務められました。

会議名である「Forests for People」は広い範囲をカバーするテーマですが、本会議では特に森林と暮らし (livelihoods)、健康・レクリエーション・ツーリズム、

ランドスケープ、文化と教育という 4 つのテーマに沿った発表が行われました。103 件の口頭発表と、加えて 20 件あまりのポスター発表もあり、非常に盛況でした。

筆者は昨年より森林浴に関するフィンランドとの二国間共同研究に関わっており、その成果発表のために会議に参加しました。この二国間プロジェクトでは日本とフィンランドでそれぞれ森林浴の生理的・心理的効果を調べる被験者実験を実施しており、日本から 5 件、フィンランドからは 2 件 (うち 1 件は基調講演) の成果発表を行いました。「森林のもたらす健康効果」は近年 IUFRO で注目されているトピックであり、ヨーロッパ内でも COST (ヨーロッパ内の国際研究協力をサポートする枠組) の Action E39「Forests, Trees and Human



写真-1 会場のアルプバハコングレスセンター



写真-2 会場内の様子 (コーヒーブレイク中)



写真-3 ポスター発表の様子

Health and Wellbeing」(2004年～2008年)をきっかけに関心が高まっています。筆者の発表したセッション「Nature and Well-Being」ではスイスから森林の健康効果に関する実験と全国調査の結果も発表されていましたが、発表していた研究者に聞いたところ COST E39 で初めてこのテーマに取り組み始め、面白い!と思って続けているとのことでした。このセッションに続いて「Forests and Well-Being」というセッションも行われ、ドイツ、フィンランド、イギリス、日本から関連発表がありました。2007年にフィンランドで行われた Div.6 のシンポジウムで森林浴の発表をした頃には、どの国も関心は高いけど手持ちのデータはあまりないという状況に見えたのですが、この数年で急速に研究が進んでいる



写真-4 アルプスバハの町並み

と感じられました。

公式アナウンスによると本会議には40カ国から250名もの参加があったそうで、研究者だけではなく行政関係者も多かったようです。そういえばケーブルカーで山小屋まで登って行われた懇親会ではイスラエルの林野行政官と隣になり質問攻めにありましたが・・・(結婚しているのか? 子供はいるのか? 家はいくらで買った?) なかなか楽しい経験でした。

今回の会議は2013年にアメリカのウェストバージニア大学で行われるとのこと。新しく活発なタスクフォース「Forests for People」にこれからも注目していきたいと思っています。

「絶滅のおそれがある森林有用樹種の多国間および国境を越えた保全に関するアジア太平洋ワークショップ」参加報告

森林総合研究所 菊地 賢

「絶滅のおそれがある森林有用樹種の多国間および国境を越えた保全に関するアジア太平洋ワークショップ」は、平成23年12月5日～12月7日に中国広州で開催された。同ワークショップは、アジア太平洋林業研究機関連合(APAFRD)と中国林業科学院熱帯林業研究所の共催、IUFRO、マレーシア森林研究所、韓国森林研究所の協力により実施された。開発により個体数が減少したり絶滅に瀕したりしている有用樹種を二国間あるいは多国間の協力により保全するための研究について議論することを目的としている。

ワークショップでは、各国の希少有用樹の現状と保全対策について知見を深めることができた。今回のワークショップではサンダルウッド (*Santalum album*) やローズウッド (*Dalbergia*) が主要テーマとなっており、中国・ベトナム等でこれらの希少有用樹がいかに重視されているか、またその資源保全のためにどうした研究がなされているかについて、理解することができた。

また、アフガニスタンのように、他国間にまたがる河川を持つ国での多国間生物多様性保全の重要性が示唆された。さらに、テーマにおいて系統地理学的研究や遺伝的多様性の評価がこうした資源保全に有用な情報を与えることが示唆された。

本ワークショップでは、出張者は河畔林を構成する希少樹木の保全研究について「Conservation of a threatened riparian tree *Salix hukaoana* (希少河畔性樹木ユビソヤナギの保全)」と題する講演をおこなった。出張者の発表テーマは生物種の越境移動や多国間での生物多様性保全という本ワークショップの主題を直接あつかうものではなかったが、生物多様性の保全のうえで個別の種の生態的・遺伝的特性を解明することの重要性を示すものと高い評価を受けた。

今回のワークショップを通じて、アジア諸国の研究者と知り合い、生物種の絶滅や保全に関する問題意識を共

有できたことは、大変貴重な体験となった。

同ワークショップのプロシーディングズはIUFRO

World Series Volume 30として公表されていて、下記からダウンロード出来ます。

<http://www.iufro.org/publications/series/world-series/>

IUFRO-J 平成 24 年度機関代表会議

平成 24 年 3 月 28 日に宇都宮大学において、標記会議が開催されました。A 会員 9 機関、B 会員 4 機関の代表と 3 名の IUFRO 役員の方に出席いただき、鈴木和夫議長の司会で議事が進められました。以下では、代表会議で審議、承認された議題の概要を報告します。なお会議開催に際して宇都宮大学の第 123 会日本森林学会大会運営委員会の皆様にご多大のお世話になりました。この場をかりてお礼申し上げます。

議題 1. 平成 23 年度会務報告

1. 一般会計

1) IUFRO-J News 発行

No.103 (2011.7) : 2011 年ユフロ拡大理事会後の科学セミナーに出席して・20th International Wood Machining Seminar に参加して・IUFRO-J 平成 23 年度機関代表会議

No.104 (2011.12) : ブラジルでの IUFRO 樹木バイオテクノロジー 2011 国際集会の概要—3 年生で平均樹高 16m のユーカリ検定林を見学—・独フライブルク市での小規模林業の研究集会に参加して・2012 年に開催される IUFRO 国際会議・事務局からのお知らせ

No.105 (2012.2) : カナダ・ケベック州で開催された国際シンポジウム「森林生態系における枯死木の動態と生態系サービス」に参加して・Joint IUFRO Group 5.10 and UNECE/FAO Team of Specialists Meeting に参加して・第 13 回 IUFRO 根株腐朽病害国際集会に参加して・林業教育に関する IUFRO 国際集会に参加して・事務局からのお知らせ、平成 24 年度に IUFRO-J が助成する研究集会

会誌送付会員（平成 24 年 3 月 22 現在）の現状

A 会員 : 23 機関 603 名（会員数前年度比 : 24 人減）

B 会員 : 14 機関（会員数前年度比 : 1 機関減, 6 人減）

C 会員 : 27 名（会員数前年度比 : 2 人減）

賛助会員 : なし

2) 理事会出席助成

拡大理事会（東大）酒井 秀夫先生（2011 年 2 月 23 日～25 日）オーストリア
（H23 年 3 月 17 日申請, 4 月 14 日送金）

3) IUFRO 関連研究集会事務局・参加助成事務局 (40 万円)

松村 直人（三重大学）20 万円
—IUFRO Division 4.0, 4.02.02
福田 健二（東京大学）20 万円

—第 7 部門のワークショップ

（H24 年 6 月に延期となったため平成 24 年度に送金予定）

参加 : 該当なし

4) IUFRO-J eNews

事務局冊子で発行している J-News を補完し会員間の情報交換を進めるため、平成 19(2007) 年 9 月より配信を開始した。

平成 19 年 9 月時点の、AB 会員の代表もしくは連絡員の方、C（個人）会員に配信。機関内の会員の e-Mail アドレスをお知らせいただいた A および B 機関会員については、それぞれの方に配信。それ以外の機関会員の代表もしくは連絡員の方には、機関内の会員の方々に転送を依頼。

平成 23 年度は、下記、2 件を配信。

4 月 14 日 CPF Press Release - World Health Day 2011

12 月 2 日 Division 5 全体会合の案内

5) 長期滞納会員の解消

複数年にわたり連絡が取れない方を退会とした。

2. 平成 23 年度役員

議長 鈴木 和夫（森林総研）

監事 阿部 恭久（日本大学）

藤田 和幸（日本森林技術協会）

幹事 石塚 森吉（森林総研）

後藤 忠男（森林総研）

主事 藤間 剛（森林総研）

議題 2. 平成 23 年度会計決算報告

1. 一般会計 (平成 24 年 2 月 28 日現在)

【収入】

| 科目 | 予算 | 決算 | 備考 |
|---------|-----------|-----------|------------------------------|
| 前年度繰越金 | 1,791,960 | 1,791,960 | |
| 会費 A 会員 | 627,000 | 535,000 | |
| B 会員 | 83,000 | 57,000 | |
| C 会員 | 28,000 | 21,000 | |
| 前年度未収分 | 97,000 | 25,000 | H22 年度までの会費を H23 年度に払った団体、個人 |
| 前納分 | 1,000 | 1,000 | H24 年度以降の会費を H23 年度に払った団体・個人 |
| 雑収入 | 1,000 | 68 | 利息 |
| 単年度収入小計 | 837,000 | 639,068 | |
| 合計 | 2,628,960 | 2,431,028 | |

【支出】

| 科目 | 予算 | 決算 | 備考 |
|------------------|-----------|-----------|---|
| 情報活動費 | 351,500 | 332,749 | J-News 印刷 (No.103, 104, 105) 発送料・通信費 |
| 内訳 J-News 103 印刷 | 100,000 | 91,738 | |
| J-News 104 印刷 | 100,000 | 99,298 | |
| J-News 105 印刷 | 100,000 | 99,078 | |
| J-News 発送料 | 50,000 | 40,750 | 14,110 (No.103), 13,230 (No.104), 13,410 (No.105) |
| 通信費 | 1,500 | 1,885 | 封筒, 切手代 |
| 会議費 | 30,000 | 0 | 平成 23 年度機関代表会議 (中止) |
| 旅費 | 300,000 | 117,555 | 理事会出席助成 (酒井秀夫) |
| 雑費 | 10,000 | 7,335 | 2,205 (振り込み手数料) 5,130 (会費受領時送金手数料) |
| 予備費・助成 | 400,000 | 200,000 | 事務局助成 (三重大学 松村直人) |
| 単年度支出小計 | 1,091,500 | 657,639 | |
| 次年度繰越 | 1,537,460 | 1,773,389 | |
| 合計 | 2,628,960 | 2,431,028 | |

議題 3. 監査報告

平成 23 年度監査報告

平成 23 年度 IUFRO—J 事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

平成 24 年 3 月 8 日

IUFRO-J 監事

日本大学 生物資源科学部

阿部 恭久 印

平成 23 年度監査報告

平成 23 年度 IUFRO—J 事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

平成 24 年 3 月 10 日

IUFRO-J 監事

日本森林技術協会

藤田 和幸 印

議題 4. 平成 24 年度事業計画案

1. 一般会計事業

1) IUFRO-J News 発行

番号 (予定時期) : 掲載記事に関する事務局案

No.106 (2012.7) : 機関代表会議報告, 集会報告

No.107 (2012.11) : 集会報告

No.108 (2013.3) : 集会報告

各 1000 部印刷し, 会員配布

PDF 版の提供 : IUFRO-J News の PDF 版を希望する会員にはメールで配布いたします。

IUFRO および IUFRO-J の目的に添った内容で, 会員相互に広く共有すべき記事を掲載したいと考えています。積極的に事務局にご相談ください。

2) 役員会出席助成

IUFRO 役員会の役員会出席に対し, 単年度一名あたり 15 万円を上限とする。

3) IUFRO 研究集会事務局・参加助成

参加助成 : 1 件

2012 IUFRO Conference Division 5 10 万円

(2012 年 7 月 8 日～13 日 ポルトガル・リスボン)

事務局助成 : 3 件

「11th Pacific Rim Bio-Based Composites Symposium (Biocomp2012)」

20 万円 (2012 年 11 月 27 日～30 日 静岡県静岡市)

「International Ergonomic Workshop of IUFRO RG3.03 in Nagoya, 2012」

20 万円 (2012 年 9 月 30 日～10 月 7 日 名古屋大学野依記念館)

「IUFRO Unit 7.03.12 "Alien Invasive Species and International Trade"」

20 万円 (2012 年 6 月 10 日～16 日 東京大学農学部弥生講堂)

助成事業の概要メモ

○助成申請は随時受け付けている。

○12月末で集計し、選考委員会に諮り、助成対象を決定。

○応募の詳細は資料4参照。

○具体的内容

「IUFRO 関連集会 事務局・参加」年間総額 50 万程度

事務局：20 万 / 件、

参加：10 万 / 件目途（発表は海外に限る、ただし世界大会を含まない。）

選考委員会（現在、5 名で構成）で決定。

応募資格：会費を納入している会員に限る。

助成を受けた者のオブリゲーション：J-News での報告。

4) 研究集会の後援

○研究集会が IUFRO-J の目的に沿い、後援内容が経費の支出をともなわない広報支援を行う。主催者からの申請にもとづいて、事務局で後援を決定、実施し機関代表会議に報告する。

議題 5. 平成 24 年度予算案

予算案立案の基本的な考え方

○単年度収支に心がける。

1. 一般会計予算案

【収入】

| 科目 | 予算 | 備考 |
|----------|-----------|--------------------|
| 前年度繰越金 | 1,773,389 | |
| 会費 | | |
| A 会員 | 600,000 | 600 名 |
| B 会員 | 69,000 | 11 口 + 4 機関 (14 名) |
| C 会員 | 28,000 | 28 名 |
| 23 年度未収分 | 120,000 | 2/28 現在 |
| 前納分 | 1,000 | |
| 雑収入 | 1,000 | 利息 |
| 単年度収入小計 | 819,000 | |
| 合計 | 2,592,389 | |

【支出】

| 科目 | 予算 | 備考 |
|---------------|-----------|--|
| 情報活動費 | 351,500 | J-News 印刷費 (No.106, 107, 108) 送料・通信費 |
| 内訳 | | |
| J-News 106 印刷 | 100,000 | |
| J-News 107 印刷 | 100,000 | |
| J-News 108 印刷 | 100,000 | |
| J-News 送料 | 50,000 | |
| 通信費 | 1,500 | 封筒, 切手代 |
| 会議費 | 30,000 | 平成 24 年度機関代表会議 (宇都宮大学) |
| 旅費 役員会出席 | 300,000 | |
| 雑費 | 10,000 | 振り込み手数料, 送金手数料 |
| 助成 | 700,000 | H23 年度助成 200,000 円・ H24 年の 3 件分 500,000 円 |
| 単年度支出小計 | 1,391,500 | |
| 次年度繰越 | 1,200,889 | |
| 合計 | 2,592,389 | |

議題 6. 役員選出, 承認

平成 24 年度役員候補

| 役員 | 氏名 | 所属 | 区分 | (任期) | [役職による指定] |
|----|-------|-------|----|--------------|--------------|
| 議長 | 鈴木 和夫 | 森林総研 | 現 | (H19 年 4 月～) | [理事長] |
| 監事 | 阿部 恭久 | 日本大学 | 現 | (H21 年 4 月～) | |
| | 藤田 和幸 | 元森林総研 | 現 | (H23 年 4 月～) | |
| 幹事 | 清野 嘉之 | 森林総研 | 現 | (H24 年 4 月～) | [国際研究担当 COD] |
| | 後藤 忠男 | 森林総研 | 現 | (H22 年 4 月～) | [国際連携推進拠点長] |
| 主事 | 藤間 剛 | 森林総研 | 現 | (H18 年 4 月～) | [国際研究推進室長] |

議長、幹事および監事は機関代表会議で選出、主事は議長が委嘱。(会則第 11 条)

任期は 2 年、再任は妨げない。(会則第 12 条)

【参考】

IUFRO 国際評議員会日本代表

代表 大河内 勇 (森林総研)

代表代理 酒井 秀夫 (東京大学)

IUFRO 役員 (2010 ~ 2015)

第 3 部会 Deputy Coordinator

酒井 秀夫 (東京大学)

第 6 部会 Deputy Coordinator

伊藤 太一 (筑波大学)

IUFRO-J News No. 106 平成 24 年 7 月 23 日

国際森林研究機関連合 - 日本委員会事務局

〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1

森林総合研究所 国際連携推進拠点

TEL 029-829-8327, 8328

iufro-j@fpri.affrc.go.jp

[編集・発行]